

受講番号 19014 学校名 高知南高等学校 氏名 澤田 朝子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 普通科 生徒数 26名  
 科目名 英語 I 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Powwow English Course I

クラスの様子・特徴

普通科2クラスを3分割したクラス。明るく屈託のない生徒が多く、ほとんどが授業を真面目に受けることができる。ただし、英語が好きという生徒は少なく、集中力に欠ける生徒もいる。

問題の確定

英語の基礎学力が定着していない。言われるとやるが、主体的な学習ができない傾向がある。

予備調査

A 授業の観察

概ね真面目には授業に取り組み、授業での応答もよくでき、音読の声も大きい。しかし、人称や、基本的な疑問文など、基礎的な文法が身につけていない生徒や、基本的な文構造についての大きな理解にも欠ける生徒もいる。

B 生徒による授業評価

1学期の授業は、よくわかった・わかったが18人いる反面、わからなかった・まったくわからなかったが6人であった。授業でもっとやって欲しいことは、英文の詳しい説明(9人)、文法の説明(8人)で、説明を求めている生徒が多いことがわかった。

C 学力データ

中3時のCRT結果によると、現高校1年全体で、4分野すべてで、全国平均を下回っていた。特に「話すこと」、「ライティング」の得点が低かった。1学期実力テストの平均点は非常に低かったが、1学期中間、期末の平均点は60点前後だった。

リサーチ・クエスト

教科書本文の音読指導を徹底し、英語らしい発音と適切なスピードで音読することができるようになれば、教科書の英語を定着させ、基礎学力を向上させることができるのではないかと。

仮説・実践・検証

仮説1

ハンドアウトの工夫により授業での日本語による説明をできるだけ減らし、様々な音読活動を、何度も行うことによって、教科書の本文をより定着させることができるだろう。

実践1

ワークシートを工夫し、理解にかける時間を短くして、授業時間内に本文を必ず読む練習をした。1. モデル(教員)→生徒がリピート 2. モデル(CD)→生徒がリピート 3. 一人読み 4. スラッシュごとにペア読み (5. Read and Look Up) 6. 1分間タイムトライアル の順番で行うことが多かった。2学期より、子音(r, th, s, shなど)やリズムにも、注意させるようにした。

検証1

教科書本文は、大きな声で音読できるようになった。知らない単語も、自分から読んでみようとするなど、英語を音で理解しようとする生徒も出てきた。しかし、定期テストでの、本文中の英語の並び替えの問題の正解率は、上がらなかった。

仮説2

音読テストを工夫し、個別のテストだけでなく、頻繁に行えば、音読練習に対する生徒のモチベーションがあがるだろう。また、テストのためにしていた音読練習が、実際の英語の基礎学力の定着につながることで実感できれば、生徒は、主体的に音読練習を行うようになるだろう。

実践2

音読テストは、1学期に2回、2学期に2回行った。音読テストの成績は、評価に入ること、また、音読が、英語の基礎力養成につながるということも、生徒には繰り返し伝え、テストの勉強方法として生徒に紹介した。

検証2

音読テストでは、大部分の生徒が、決められた時間内に、課題の文を、おおむね正しい発音で読めるようになった。音読が定期テストの勉強方法として「役に立つ」と答えた生徒は多く、実際にテスト前の勉強として音読をしており、音読をしている生徒は、成績も上位にある傾向がある。しかし、テスト前以外で、自主的に音読の練習をしている生徒は大変少ない。

仮説3

音読活動を、要約等の活動につなげることで、英語による自己表現活動が可能になるだろう。

実践3

音読のときに、自分で文章の一部を変えて読む活動をLesson6で初めてとり入れた。生徒が楽しんでできるように、ペアのゲーム仕立てにした。この活動はまだ自己表現活動とは言えないが、英文を理解して、自分で英語を考えようとする活動の第一歩として考えた。

検証3

文章の一部を変えて読む活動は、最初はとまどっていたが、4回目で大いぶスムーズに行えるようになった。生徒は、なぜこのような活動をするのかという疑問を持っていたので、ねらいについて説明した。フィードバックは、変更した文を一つ書いて、授業ごとに提出させたが、ほかの生徒のものを写すだけの生徒もいた。

研究の成果

音読は、英語学習の基本として、生徒に定着してきた。授業中の音読では、声もかなり出ている。音読テストでは、大部分の生徒が、規定の時間内に、規定の分量を音読することができるようになった。また、テスト前の学習方法として、ほとんどの生徒が音読の有効性を認めている。音読という学習方法を積極的に提示することで、多くの生徒が意欲的にテスト勉強に取り組むようになり、勉強時間も伸びた。音読と英語の基礎力の向上については、基礎力についての定義がいままだったため、はっきりとした結果を出すことができなかった。

今後の授業改善の課題

ほとんどの生徒が教科書を適切に音読できるようになったが、そうでない生徒への指導は今後どのようにするか。また、個々の発音、リズム等の指導については、紹介にとどまっており、十分な指導、練習ができていない。3学期は、音読できるようになった英語を表現活動に利用できるようになることを目指し、まず、教科書本文のサマリーができるようになることを目標にしたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-831-2811

電子メール